

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05010170

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	9	障がい者支援の充実	事業優先度	B		
単位施策	3	社会参加の促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	精神障害者通院通所交通費助成事業					
事業期間	平成25年度～平成29年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	事業利用件数の増					
事業目標	前年度比の増					
住民参加 住民協働	有	事業の利用により病状と日常生活の安定を図る	見直し年度			
			担当課	5 保健福祉課		
			関係課	#N/A		
			ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
			関係例規・法令名	有 障害者基本法、自立支援法		
			関係個別計画名	有 障がい者計画		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	精神障がい者が通院または社会復帰関連施設へ通所する際の交通費を助成することで、住み慣れた地域での生活の安定を図る。	町外医療機関、社会復帰施設等への通院・通所に係る交通費を助成する	町外医療機関、社会復帰施設等への通院・通所に係る交通費を助成する	町外医療機関、社会復帰施設等への通院・通所に係る交通費を助成する	町外医療機関、社会復帰施設等への通院・通所に係る交通費を助成する	町外医療機関、社会復帰施設等への通院・通所に係る交通費を助成する
	【評価・実績】	(実施内容等) 事業利用者数 通院交通費助成 実9名延77件 通所交通費助成 実1名延 4件 ※事務事業評価結果 B－継続/現状維持	(実施内容等) 事業利用者数 通院交通費助成 実11名延52件 通所交通費助成 0件 ※事務事業評価結果 B－継続/現状維持	(実施内容等) 事業利用者数 通院交通費助成 実11名延87件 通所交通費助成 0件 ※事務事業評価結果 A－継続/現状維持	(実施内容等) 事業利用者数 通院交通費助成 実13名 延50件 通所交通費助成 0件 ※事務事業評価結果 A－継続/現状維持	(実施内容等) 事業利用者数 通院交通費助成 実13名 延45件 通所交通費助成 0件 ※事務事業評価結果 A－継続/現状維持
計 画 事 業 費	事業費(千円)	1,680	280	350	350	350
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,680	280	350	350	350	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,155	134	200	271	280
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,155	134	200	271	280	
関 連 事 項	特定財源の名称					
	前記計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	事業利用者数の増	事業利用者数の増	事業利用者数の増	事業利用者数の増
	(継続有り)	年度達成率	48%	57%	77%	80%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	8%	20%	36%	53%
	備考欄					

事業名	精神障害者通院通所交通費助成事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	保健係長	小野 美和

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	精神障がい者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業利用人数(実数)、件数(延べ)	
【抱える課題やニーズは】	専門医療機関や社会復帰施設が町内になく、通院や通所に経済的負担がある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	精神障がい者が必要な定期通院、通所の機会が確保できる。	① 事業利用件数(前年比)	目標年度	平成29年度
			目標値	50件
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	精神障がい者の心身の安定を図り、在宅生活が継続できる。	②	実績値	45件
			達成度	90.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	通院、通所交通費の助成	町外の精神科専門医への通院、地域活動支援センター等への通所にかかる交通費助成	目標年度	平成29年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	精神科専門医が町内にないこと、地域活動支援センターの町内設置もないことから、事業を行うことで経済的負担を理由とした医療中断や通所中断での症状悪化予防のために必要な事業である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	事業を継続的に利用し、必要に応じた医療受診ができたと思う。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事務作業の軽減を図り、効率的に実施できた。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	精神疾患の発症は誰にでも起こりえるものであり、必要時に継続的な負担軽減ができることは公平と考える。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
事業利用者は継続しており、医療が必要な方が適切に受診を行うことができたと考えられる。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
三障害者手帳のうち、精神保健福祉手帳保持者のみ交通費助成を受けることができていない現状であり、継続が必要である。		

※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止